

り」「きたほなみ」よりやや優る中、赤かび病抵抗性は中、赤さび病抵抗性はやや強、うどんこ病抵抗性は強である。穂発芽性は「キタノカオリ」より優り、「きたほなみ」よりやや劣る中である。

5. 子実重は「キタノカオリ」と同程度で「きたほなみ」よりやや劣る。
6. 製粉歩留、ミリングスコアは「キタノカオリ」並で、粉質は硝子質、原料及び60%粉の粗蛋白質含量は「キタノカオリ」並で「きたほなみ」より高い。
7. フェリノグラムの吸水率、バリロメーターバリュウは「キタノカオリ」とほぼ同程度である。エキステン

ソグラムの生地の力の程度は中で、伸長抵抗はやや強、伸長度は中、形状係数はやや大である。中華めん官能検査の評点は、めんの色、食感ともに「キタノカオリ」と同程度であり、中華めん適性は「キタノカオリ」並に優れる。

#### 栽培適地と奨励態度

「キタノカオリ」および「きたほなみ」の一部に置き換えて栽培する。穂数不足が減収につながることから、穂数を確保する栽培管理に努める。耐雪性が中であり、冬損程度がやや大きい事例があるので、雪腐病防除を徹底する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	子実重 (kg/10a)	標準比 (%)	容積重 (g)	千粒重 (g)	外観 品質	試験年次
北見農試	つるきち	6.11	7.28	80	9.9	627	0.0	607	100	824	41.5	中上	2009～ 2011
	キタノカオリ	6.12	7.29	84	9.7	676	0.1	606	100	829	39.6	中上	
	きたほなみ	6.11	7.26	87	8.6	836	1.0	681	112	821	33.9	中上	
	ホクシン	6.10	7.24	90	8.7	818	1.1	584	96	812	35.2	中上	
中央農試	つるきち	6.08	7.21	82	9.7	539	0.3	636	97	801	41.7	中上	2009～ 2011
	キタノカオリ	6.11	7.23	87	9.4	605	0.2	655	100	812	39.1	中上	
	きたほなみ	6.08	7.21	92	8.7	812	1.5	734	112	801	35.6	中上	
	ホクシン	6.06	7.18	92	8.5	745	2.5	586	89	789	35.3	中上	
上川農試	つるきち	6.08	7.19	72	9.4	452	0.0	481	92	790	42.4	中中	2009～ 2011
	キタノカオリ	6.11	7.21	77	9.4	521	0.0	523	100	785	39.2	中上	
	きたほなみ	6.08	7.18	81	8.3	679	0.5	605	116	784	36.6	中上	
	ホクシン	6.07	7.16	84	8.4	677	1.7	535	102	776	36.8	中上	
十勝農試	つるきち	6.10	7.26	80	9.7	512	0.0	519	97	823	43.3	中下	2009～ 2011
	キタノカオリ	6.12	7.27	87	9.7	586	0.0	536	100	833	41.3	中下	
	きたほなみ	6.09	7.24	92	8.6	756	0.1	624	116	847	37.8	中中	
	ホクシン	6.07	7.21	94	8.8	751	0.3	555	104	826	37.6	中上	

注1) 倒伏程度は無(0)～甚(5)の6段階評価。外観品質は上上、上下、中上、中中、中下、下の6段階評価。

注2) 容積重は、北見農試と十勝農試がインフラテック1241による調査。中央農試はブラウエル穀粒計による調査。上川農試はガラス升リットル重測定器による調査。

参照 1) 北海道農政部編、平成24年普及奨励ならびに指導参考事項、5-8 (2012)

### 3. 大豆

- (1) トヨハルカ (系統名 十育237号) 2005年  
登録番号：(北海道)大豆北海道第40号  
(農水省)だいで農林131号  
(種苗法)第16458号

#### セールスポイント

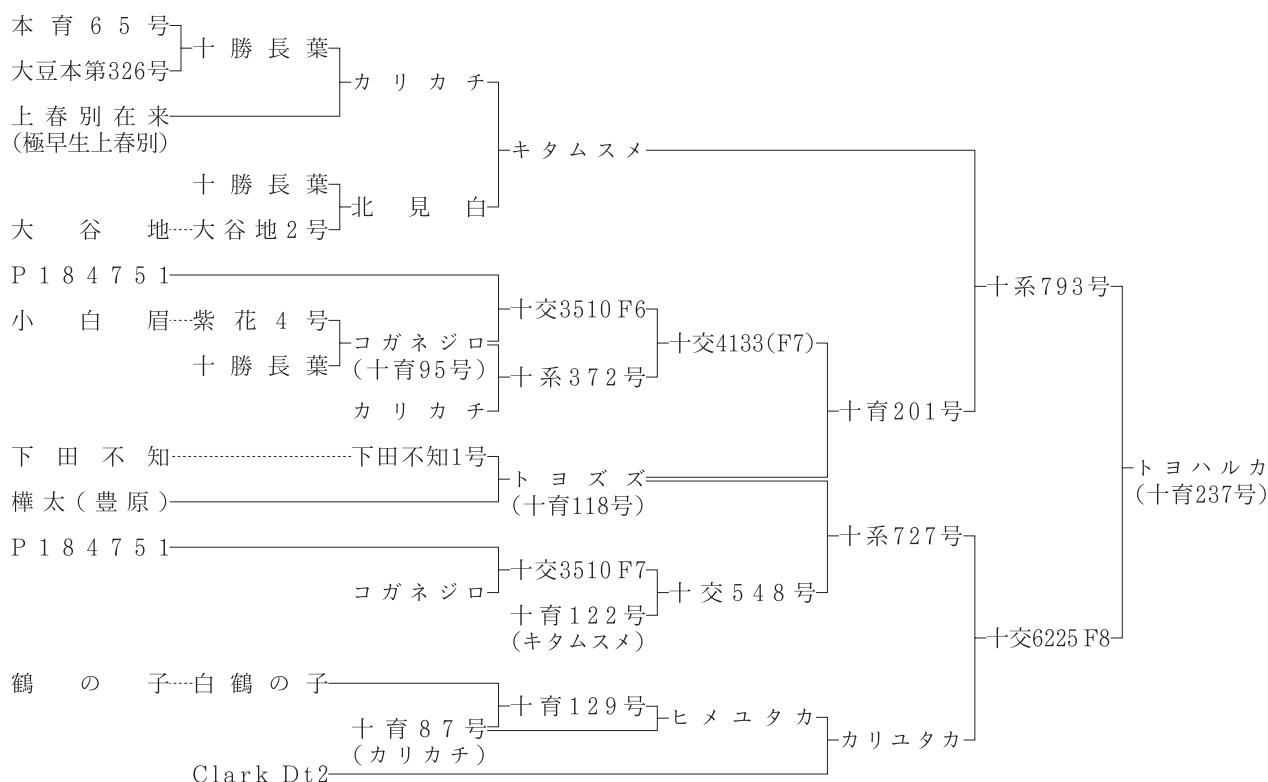
低温によるへそおよびへそ周辺着色抵抗性が強く外観品質に優れ、密植適性およびコンバイン収穫適性が高く、耐冷性およびダイズシストセンチュウ抵抗性を有する白目大粒品種である。

来歴 本品種は、ダイズシストセンチュウ抵抗性、低温

抵抗性、低温着色抵抗性で機械収穫向きの品種育成を目標に、1993年に北海道立十勝農業試験場において「十系793号」を母、「十交6225F8」を父として人工交配を行い、以後選抜と固定を図り、その後代から育成したもので、1999年から「十系907号」、2002年からは「十育237号」の系統名で各種試験を行い、2005年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

#### 特性概要

1. 主莖長、主莖節数および分枝数はそれぞれ「トヨムスメ」の短、少および中に対して短、少および少である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。



- 胚軸の色と花色は紫，小葉の形は卵形で，毛茸は色が白で，形は直，その多少は中程度である。
- 粒の形は「トヨムスメ」の扁球に対して球であり，粒の大小は同品種と同じ大である。また，粒の子葉色は黄，光沢は弱，へその色は黄，種皮の地色は黄白である。
- 開花期および成熟期は，それぞれ「トヨムスメ」と同じやや早および中であり，生態型は夏大豆型に属する。
- 標準栽培における子実収量は「トヨムスメ」よりやや少ないが，倒伏抵抗性は同品種より優れ，密植栽培による増収程度は同品種より優る。低温抵抗性（開花期／生育期）は「トヨムスメ」の中／中に対し，強／強である。
- シストセンチュウ抵抗性は強，わい化病抵抗性は中である。茎疫病抵抗性は強／強（レース群Ⅰ／Ⅱ）で

- ある。裂莢の難易は「トヨムスメ」の易に対し中であり，最下着莢節位高は同品種よりやや高い高である。
7. 外観上の品質は「トヨムスメ」並で，裂皮粒の発生は「トヨムスメ」より多い易である。
8. 子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「トヨムスメ」同様にそれぞれ中および低である。遊離型全糖含有率は同品種並に高い。煮豆および納豆の加工適性は「トヨムスメ」と同等，豆腐加工適性は同品種より劣るが，味噌加工適性は同品種より優れる。

#### 栽培適地と奨励態度

道央，上川南部，十勝中部に適する。栽培上の注意は，  
 1. わい化病抵抗性は中なので適切な防除に努めること，  
 2. シストセンチュウ・レース1発生圃場への作付けは避けること，  
 3. 収量とコンバイン適性向上のため密植栽培を励行すること，である。

試験地名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a当り		百粒重 (g)	品質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)	莢数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	トヨハルカ	7.21	9.30	55	3.4	56.2	無	322	96	37.3	2下	2002～ 2004
	トヨムスメ	7.20	10.2	55	4.4	60.8	少	335	100	37.4	3中	
	トヨコマチ	7.20	9.29	60	5.3	62.9	少	329	98	35.0	3中	
上川農試	トヨハルカ	7.14	9.28	63	4.8	70.2	少	413	100	38.3	2下	2002～ 2004
	トヨムスメ	7.14	9.28	60	6.4	70.2	中	411	100	37.7	3中	
	トヨコマチ	7.13	9.22	63	6.2	66.2	中	389	95	36.5	3上	
中央農試	トヨハルカ	7.17	9.27	63	4.1	65.3	少	374	94	38.6	2下	2002～ 2004
	トヨムスメ	7.16	9.29	64	6.3	69.1	中	400	100	39.8	3中	



8. 子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「トヨコマチ」同様にそれぞれ中および低である。遊離型全糖含有率は同品種よりやや低く、大豆イソフラボン含量は高い。煮豆、納豆、味噌および豆腐の加工適性は、いずれも「トヨコマチ」など白目中粒品種と同等である。

1. 主茎長が長く倒伏することがあり、密植しても増収効果が低いため標準密度で栽培すること、2. 「トヨコマチ」より裂莢しやすく収穫適期が短いため、茎水分低下後は速やかに収穫すること、3. 葉色が「トヨコマチ」より淡いが、品種の特性であるため慣行の肥培管理で良い、4. わい化病抵抗性は弱なので適切な防除に努めること、5. シストセンチュウ・レース1発生圃場への作付けは避けること、である。

### 栽培適地と奨励態度

道央、上川、網走、十勝に適する。栽培上の注意は、

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	総イソフラ ボン含量 (mg/100g)	試験年次
				主茎長 (cm)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	ゆきぴりか	7.20	9.26	70	64.4	少	317	101	33.6	2中	534	2003～ 2005
	トヨコマチ	7.20	9.27	57	62.4	少	314	100	34.8	3中	340	
	ユキホマレ	7.20	9.26	53	66.0	無	312	99	35.1	2下	350	
北見農試	ゆきぴりか	7.20	9.28	80	74.0	少	376	98	33.2	2上	474	2003～ 2005
	トヨコマチ	7.18	9.25	63	69.3	少	382	100	35.8	2下	327	
	ユキホマレ	7.19	9.26	65	75.8	微	404	106	35.4	2中	—	
上川農試	ゆきぴりか	7.11	9.23	76	71.8	多	450	108	37.6	2中	615	2003～ 2005
	トヨコマチ	7.10	9.20	62	69.8	中	418	100	38.0	3上	388	
	ユキホマレ	7.10	9.20	62	78.1	中	451	108	38.0	2下	—	
中央農試	ゆきぴりか	7.16	9.20	66	64.0	少	336	94	34.8	2中	548	2003～ 2005
	トヨコマチ	7.15	9.19	59	65.2	少	359	100	36.9	2下	358	
	ユキホマレ	7.15	9.18	55	72.3	微	379	106	36.4	2上	—	

参照 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 33-35 (2006)。

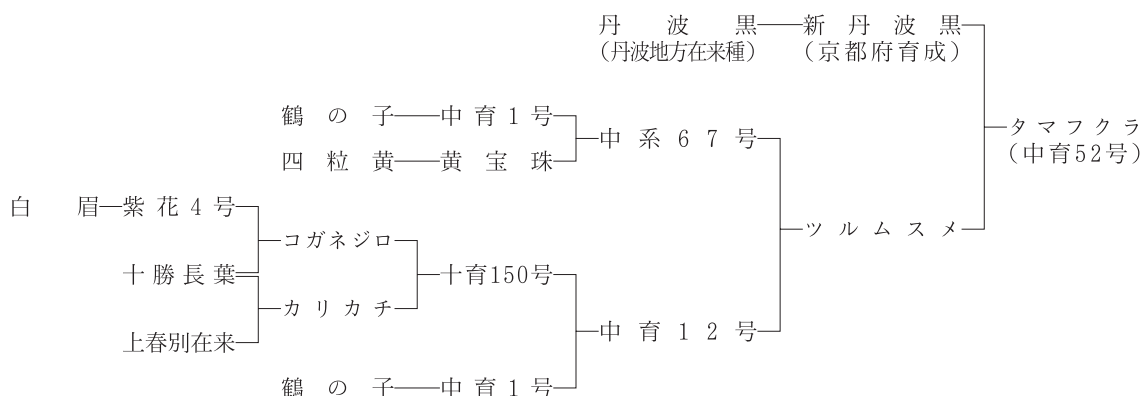
(3) タマフクラ (系統名 中育52号) 2007年  
登録番号: (北海道) 大豆北海道第42号  
(農水省) だいで農林136号  
(種苗法) 第21235号

たなブランドを目指す。

### セールスポイント

「タマフクラ」は、百粒重が60g以上と「ユウヅル」よりかなり重い白目極大粒品種である。道南地方において、これまでの道産大豆にない粒大の特徴を生かした新

来歴 本品種は、1993年に北海道立中央農業試験場において、極大粒、良質黒大豆「新丹波黒」(京都府にて在来種「丹波黒」より育成)を母として、わい化病抵抗性の白目極大粒品種「ツルムスメ」を父として人工交配を行い以降選抜、育成した。2002年から「中系385号」、2003年以降「中育52号」の系統名を付して各種試験を行い、2007年に優良品種となった。



## 特性概要

1. 伸育型は有限である。胚軸のアントシアニンの着色は無、花色は白である。毛茸は褐・直毛であり、その多少は中程度で、熟莢色の濃淡は淡である。
2. 茎の長さ、茎の節数および分枝の数はそれぞれやや長、やや少および中である。子実の大きさは「ユウヅル」の極大群の小に対し大であり、子実の形は球である。種皮の地色は黄白、臍の色は黄、子葉色は黄である。
3. 成熟期は「ユウヅル」と同じ晩である。倒伏抵抗性は同品種の中に対し強である。
4. 子実重は同品種並～やや劣るが、百粒重は60g以上と「ユウヅル」よりかなり重く、篩目9.7mm以上の収量が多い。
5. ダイズシストセンチュウ抵抗性、わい化病は、「ユ

ウヅル」同様弱である。

6. 粗蛋白含有率は「ユウヅル」と同程度の中、粗脂肪含有率は同品種の低より高い中である。全糖含有率は同品種よりやや低い。生豆の種皮色は「ユウヅル」よりやや暗いが、蒸煮豆の明るさは同程度であり、納豆、煮豆等の加工に適する。

## 栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山北部、檜山南部地域およびこれに準ずる地帯での栽培に適する。栽培上の注意は、ダイズシストセンチュウ抵抗性が弱なので、発生圃場への作付けは避ける、ダイズわい化病抵抗性が弱なので、適切な防除に努める、種子消毒その他の肥培管理及び収穫調整は従来極大粒品種に準じて行う、である。

試験場名	品系統名	成熟期(月日)	主茎長(cm)	倒伏程度	子実重(kg/10a)	同左比(%)	百粒重(g)	裂皮粒率(%)	品質	ふるい目9.5mm以上子実重(kg/a)	色調(L*)		煮豆の硬さ(g/cnf)	試験年次
											生豆	蒸煮豆		
中央農試(育成地)	タマフクラ	10/17	74	1.1	325	98	63.2	4.6	2下	21.8	68.2	51.6	731	2003～2006
	ユウヅル	10/15	83	2.5	332	100	41.6	27.2	3上	0.8	71.8	51.2	912	
道南農試(栽培適地)	タマフクラ	10/12	67	2.3	319	86	64.9	5.4	3下	30.4	69.4	50.9	777	2003～2006
	ユウヅル	10/7	70	2.6	364	100	42.8	24.3	3下	1.8	71.4	51.0	947	

注1) 道南農試の値は2005～2006年の2カ年平均。

注2) 色調のL\*は大きい方が明るい。

注3) 裂皮粒率は幅1mm以上の粒数率。

参照 1) 北海道農政部編, 平成19年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-38 (2007)。

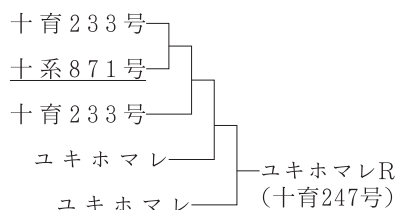
## (4) ユキホマレR (系統名 十育247号) 2010年

登録番号: (北海道) 大豆北海道第43号  
(農水省) だいで農林140号  
(種苗法) 第21207号

## セールスポイント

「ユキホマレ」にダイズシストセンチュウレース1抵抗性を戻し交配により導入した品種で、シストセンチュウ抵抗性以外の農業特性および加工適性は「ユキホマレ」と実質的に同等な白目中粒品種である。

**来歴** 本品種は、ダイズシストセンチュウレース1・3抵抗性の白目品種育成を目標に、1999年に北海道立十勝農業試験場において「十育233号」(後の「ユキホマレ」)を反復親, 「十系871号」を一回親としてDNAマーカー選抜を利用した戻し交配を行い、以後選抜と固定を図り、育成したもので、2006年から「十系1020号」、2007年からは「十育247号」の系統名で各種試験を行い、2010年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



注1) 下線はダイズシストセンチュウレース1・3抵抗性を持つ

注2) 「十育233号」は後の「ユキホマレ」

## 特性概要

1. 主茎長、主茎節数および分枝数はそれぞれ「ユキホマレ」と同じ短、少および中である。伸育型は有限であり、熟莢色は淡褐を呈する。
2. 胚軸の色と花色は紫、小葉の形は卵形で、毛茸は色が白で、形は直、その多少は中程度である。
3. 粒の形および粒の大小は、それぞれ「ユキホマレ」と同じ球およびやや大である。粒の子葉色は黄、光沢は弱、へその色は黄、種皮の地色は黄白である。
4. 開花期および成熟期は、それぞれ「ユキホマレ」と同じやや早であり、生態型は夏大豆型に属する。
5. 子実収量は「ユキホマレ」と同等で、倒伏抵抗性は同品種と同じ強である。低温抵抗性（開花期／生育期）は「ユキホマレ」と同じやや強／強である。
6. シストセンチュウ抵抗性は「ユキホマレ」の強に対して極強、わい化病抵抗性は同品種と同じ弱である。茎疫病抵抗性は強／強（レース群Ⅰ／Ⅱ）である。裂莢の難易は「ユキホマレ」と同じ難、最下着莢節位高は同品種と同じ中である。

7. 外観上の品質は「ユキホマレ」と同等で、裂皮粒の発生は同品種並である。子実の粗蛋白および粗脂肪含有率は「ユキホマレ」同様にそれぞれ中および低である。遊離型全糖含有率は同品種と同等である。煮豆、納豆、味噌および豆腐の加工適性は、いずれも「ユキホマレ」と同等である。

## 栽培適地と奨励態度

道央、上川、網走、十勝のうち、「ユキホマレ」等のダイズシストセンチュウレース3抵抗性品種にセンチュウ被害が発生している地域に適する。栽培上の注意は、

1. ダイズシストセンチュウレース1・3抵抗性を有するが、より病原性の強いレースの出現リスクを回避するため連作および短期輪作を避けること、
2. ダイズシストセンチュウ発生地域への導入に際しては、優占レースを確認し、「スズヒメ」（レース1・3抵抗性の過去の優良品種）にシストの寄生する圃場への作付は避けること、
3. その他栽培上の注意は「ユキホマレ」に準ずること、である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
				主茎長 (cm)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)			
十 勝 農 試	ユキホマレR	7.22	9.26	55	67.3	無	332	98	34.4	3上	2007～ 2009
	ユキホマレ	7.22	9.26	57	67.7	無	339	100	36.0	3上	
	トヨコマチ	7.21	9.26	64	63.1	微	338	101	36.9	合格	
北 見 農 試	ユキホマレR	7.23	9.29	58	67.4	微	347	98	32.9	3上	2007～ 2009
	ユキホマレ	7.23	9.29	63	70.5	微	354	100	34.9	3上	
	トヨコマチ	7.23	9.29	66	62.4	少	342	97	35.4	3中	
上 川 農 試	ユキホマレR	7.12	9.21	68	83.9	中	434	101	35.9	2上	2007～ 2009
	ユキホマレ	7.12	9.21	70	78.2	中	428	100	37.7	1	
	トヨコマチ	7.11	9.20	70	76.4	中	398	93	35.9	2中	
中 央 農 試	ユキホマレR	7.14	9.17	57	62.6	微	350	100	35.5	2中	2007～ 2009
	ユキホマレ	7.14	9.17	60	63.9	微	349	100	37.5	2上	
	トヨコマチ	7.15	9.17	63	62.0	中	344	99	36.3	2中	

参照 1) 北海道農政部編, 平成22年普及奨励ならびに指導参考事項, 35-38 (2010)。

- (5) ゆめのつる (系統名 中育60号) 2011年  
登録番号: (北海道) 大豆北海道第44号  
(農水省) だいで農林142号  
(種苗法) 第22047号

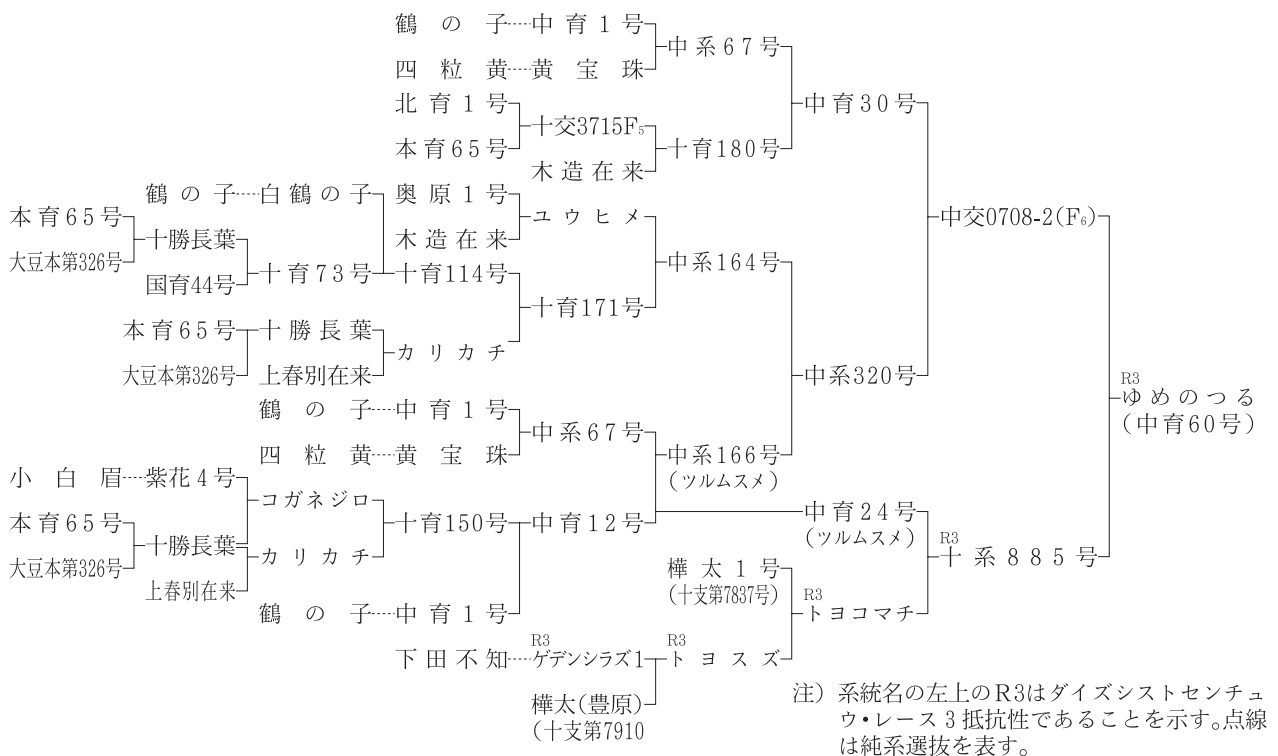
## セールスポイント

「ユウヅル」に代わる道南地方向けの白目極大粒品種である。百粒重が「ユウヅル」並で、裂皮の発生が少なく外観品質が優れる。同品種より多収であり、ダイズシストセンチュウレース3抵抗性を有する。

来歴 本品種は、2001年に北海道立中央農業試験場において、極大粒・わい化病抵抗性・難裂皮性の「中交0708-2 (F6)」を母、大粒・ダイズシストセンチュウ抵抗性(レース3)・難裂皮性の「十系885号」を父とする交配を行い、その雑種後代から育成した品種である。2007年から「中系476号」、2008年からは「中育60号」の系統名で各種試験を行い、2011年に優良品種となった。

## 特性概要

1. 伸育型は有限である。胚軸のアントシアニンの着色



が無、花色は白である。毛茸は白・直毛であり、その多少は中程度である。熟莢の色は淡褐である。

2. 主茎長、主茎節数および分枝数は各々「ユウヅル」の中、中および少に対して、中、少および中である。子実の大きさは極大群の小、形は球、種皮の地色は黄白、臍の色は黄でいずれも「ユウヅル」と同じである。
3. 成熟期は「ユウヅル」と同じやや晩生である。道南農試では、成熟期が同品種より1～2日遅く、倒伏はやや少なく、多収である。
4. 百粒重は「ユウヅル」並である。裂皮粒率が低く、外観品質に優れる。
5. ダイズシストセンチュウ抵抗性は、「ユウヅル」の弱に対して、レース3に抵抗性の強である。ダイズわ

- い化病抵抗性は「ユウヅル」の弱に対して中である。
6. 粗蛋白含有率は「ユウヅル」と同じ中、粗脂肪含有率は同品種よりやや高い中である。全糖含有率は「ユウヅル」と同等である。加工適性は「ユウヅル」と同程度で、煮豆等の加工に適する。

#### 栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山北部、檜山南部地域およびこれに準ずる地帯での栽培に適する。栽培上の注意は、ダイズシストセンチュウレース3抵抗性であるが、連作および短期輪作を避けるとともに、レース3抵抗性品種にシストが着生するような圃場では作付けを避けることである。

試験場名	品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			倒伏 程度	10a当り		百粒重 (g)	裂皮 粒率 (%)	品質 (等級)	試験 年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	莢数 (莢/株)		子実重 (kg)	同左比 (%)				
中央農試 (育成地)	ゆめのつる	7/23	10/11	80	6.0	62	多	384	103	50.6	14.5	2下	2008～ 2010
	ユウヅル	7/25	10/14	86	4.5	57	甚	373	100	49.1	54.1	3下	
道南農試 (栽培適地)	ゆめのつる	7/23	10/3	82	5.6	69	少	371	109	50.4	24.1	3上	2008～ 2010
	ユウヅル	7/25	10/1	81	4.7	60	中	341	100	49.6	51.3	3中	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成23年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4 (2011).  
2) 大西志全 等, 北海道立総合研究機構農試集報, 97, 1-14 (2013).

- (6) つぶらくろ (系統名 中育63号) 2012年  
登録番号: (北海道) 大豆北海道第46号  
(農水省) だいで農林143号  
(種苗法) 第27097号

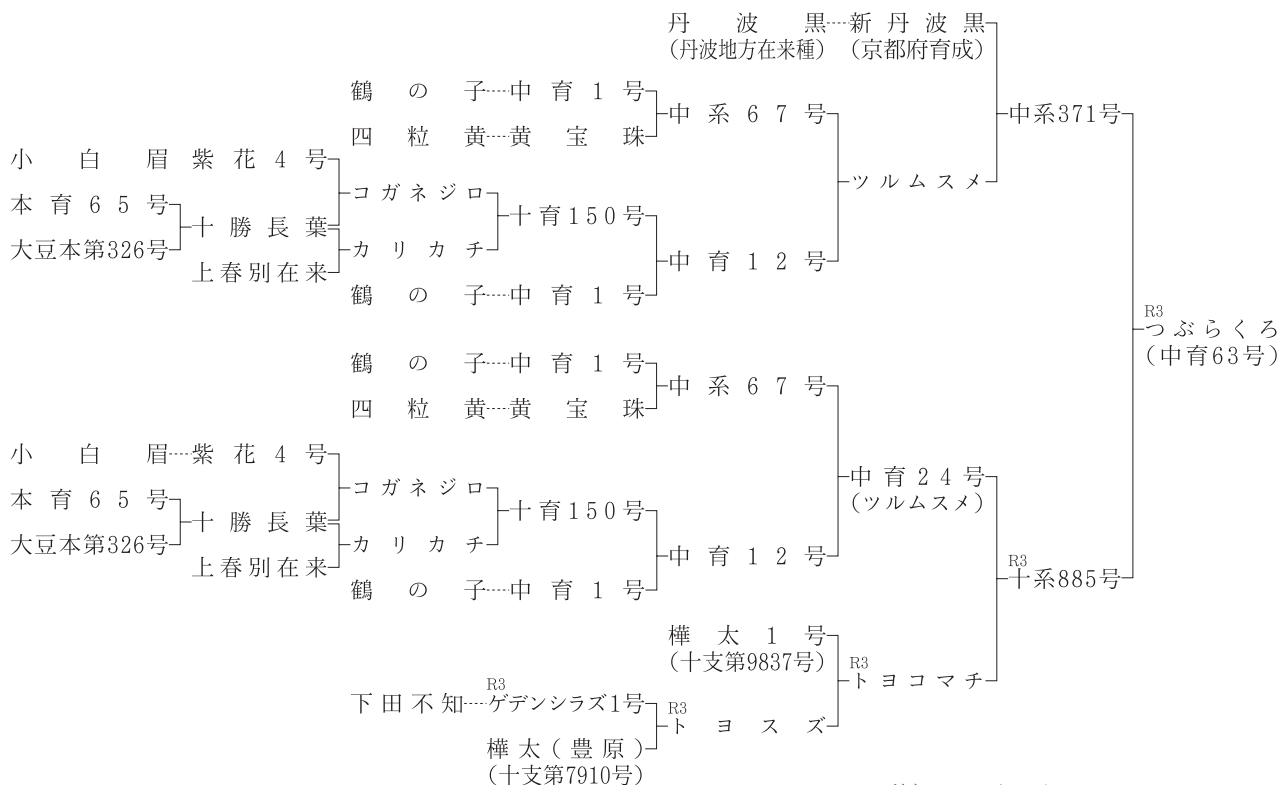
#### セールスポイント

道南地方の「晩生光黒」「いわいくろ」に代わる極大粒黒大豆品種である。黒大豆として初めてのダイズシストセンチュウレース3抵抗性を有する。両品種より多収で、百粒重は「いわいくろ」より重く、外観品質は同等

である。

**来歴** 本品種は、2001年に北海道立中央農業試験場において、「新丹波黒」×「ツルムスメ」の組合せより育成した極大粒黒大豆系統「中系371号」を母、ダイズシス

トセンチウ抵抗性で難裂皮性の白目大粒系統「十系885号」を父として人工交配を行い、その雑種後代から育成した。2006年から「中系463号」、2009年以降「中育63号」の系統名を付して各種試験を行い、2012年に優良品種となった。



注) R3:ダイズシストセンチウ・レース3抵抗性を示す。

### 特性概要

1. 伸育型は有限である。胚軸のアントシアニンの着色は無、花色は白である。毛茸は褐・直毛であり、その多少は中程度で、熟莢色の濃淡は中である。
2. 茎の長さ、茎の節数および分枝の数はそれぞれ長、中および中である。子実の大きさは極大群の小、子実の形は「晩生光黒」の球に対し、「いわいくろ」と同じ偏球である。種皮の地色、臍の色は黒、子葉色は黄である。粒の光沢は「晩生光黒」の強に対し「いわいくろ」と同じ中であり、種皮がやや蠟質である。
3. 成熟期は「いわいくろ」の中、「晩生光黒」の極晩に対し晩である。倒伏は少なく、多収である。
4. 百粒重は「いわいくろ」より重く、外観品質は同等である。

5. ダイズシストセンチウ抵抗性は、「いわいくろ」、「晩生光黒」の弱に対して、レース3に抵抗性の強である。
6. 粗蛋白含有率は「いわいくろ」よりやや高いやや低で、粗脂肪含有率は同品種と同じ中である。全糖含有率は同品種よりやや低い。煮豆加工適性は「いわいくろ」「晩生光黒」と同等に適する。

### 栽培適地と奨励態度

渡島南部、檜山北部、檜山南部地域およびこれに準ずる地帯での栽培に適する。栽培上の注意は、ダイズシストセンチウレース3抵抗性であるが、連作および短期輪作を避けるとともに、レース3抵抗性品種にシストが着生するような圃場では作付けを避けることである。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	ダイズシスト センチウ 抵抗性	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)		子実重 (kg)	同左比 (%)				
中央農試 (育成地)	つぶらくろ	7/20	10/8	74	5.2	少	345	102	56.4	3上	強	2009~ 2011
	いわいくろ	7/19	9/30	61	4.6	中	337	100	50.5	3中	弱	



試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	ダイズシスト センチュウ 抵抗性	試験年次
				主茎長 (cm)	分枝数 (本)		子実重 (kg)	同左比 (%)				
道南農試 (栽培適地)	つぶらくろ	7/22	9/29	81	6.0	中	392	107	56.1	3上	強	2009～ 2011
	いわいくろ	7/21	9/25	66	4.5	中	367	100	51.5	3上	弱	
	晩生光黒	7/28	10/5	90	4.7	甚	308	84	55.4	3中	弱	

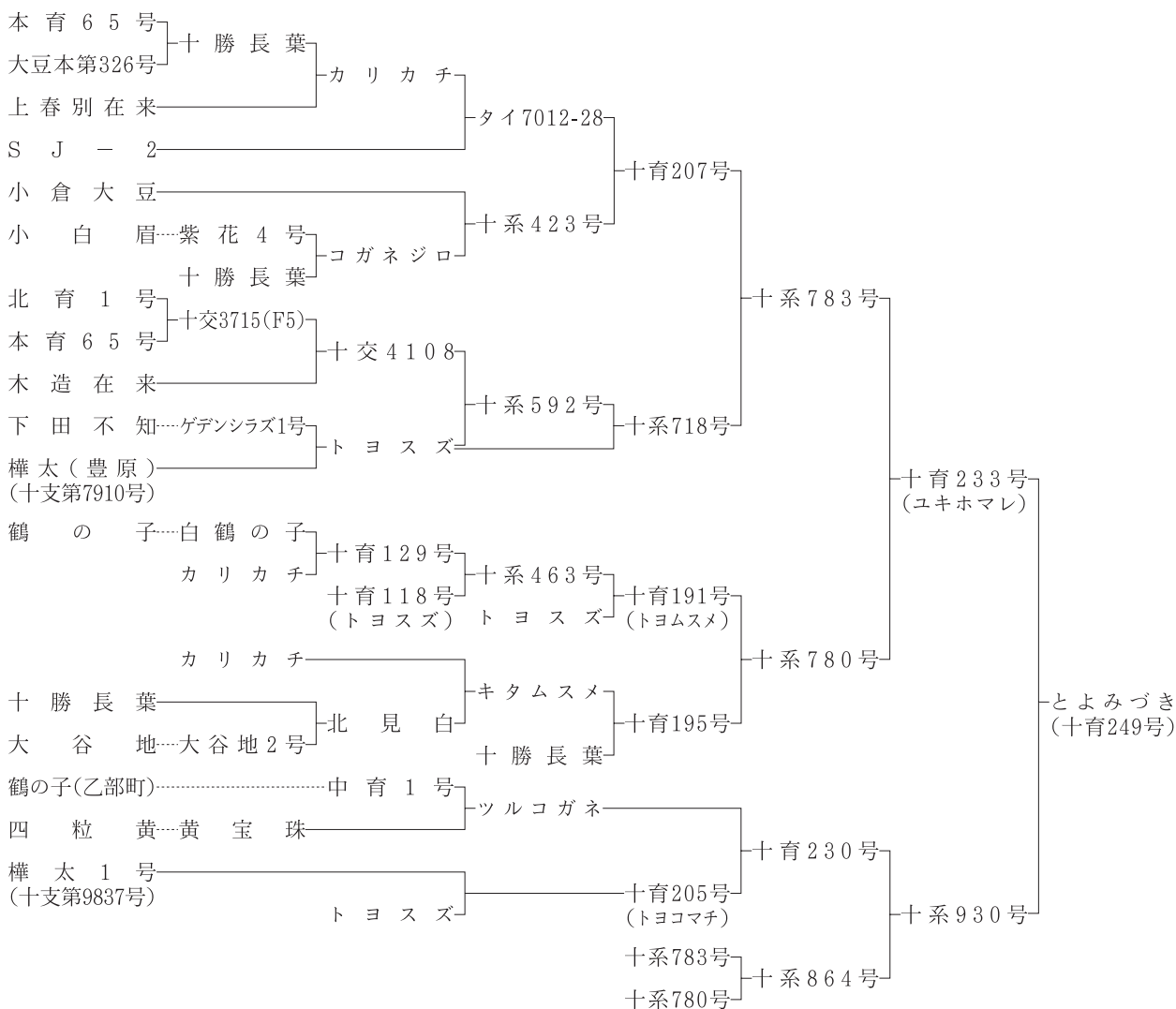
参照 1) 北海道農政部編, 平成24年普及奨励ならびに指導参考事項, 9-12 (2012)。

(7) とよみづき (系統名 十育249号) 2012年  
登録番号: (北海道) 大豆北海道第45号  
(農水省) だいで農林144号  
(種苗法) 出願番号 第27001号

来歴 本品種は、ダイズシストセンチュウレース3抵抗性でダイズわい化病抵抗性の白目品種育成を目標に、2001年に北海道立十勝農業試験場において「十育233号」(後の「ユキホマレ」)を母, 「十系930号」を父とした交配を行い, 以後選抜と固定を図り, その後代から育成したもので, 2007年から「十系1037号」, 2009年からは「十育249号」の系統名で各種試験を行い, 2012年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

### セールスポイント

豆腐破断応力が高く豆腐加工適性に優れ, 開花後の低温による裂開粒の発生が少なく, 低温抵抗性, へそ周辺着色抵抗性およびダイズシストセンチュウ抵抗性を有するやや早の白目中粒品種である。



### 特性概要

1. 主茎長, 主茎節数および分枝数はそれぞれ「ユキホ

マレ」と同じ短, 少および中である。伸育型は有限であり, 熟莢色は淡褐を呈する。

- 胚軸の色と花色は紫，小葉の形は卵形で，毛茸は色が白で，形は直，その多少は中程度である。
- 粒の形および粒の大小は，それぞれ「ユキホマレ」と同じ球およびやや大である。粒の子葉色は黄，光沢は弱，へその色は黄，種皮の地色は黄白である。
- 開花期および成熟期は，それぞれ「ユキホマレ」と同じやや早であり，生態型は夏大豆型に属する。
- 子実収量は「ユキホマレ」と同等で，倒伏抵抗性は同品種と同じ強であるが，密植により倒伏が多発することがある。低温抵抗性（開花期／生育期）は「ユキホマレ」のやや強／強に対し強／強で，開花後の低温による裂開粒の発生は少ない。
- シストセンチュウ抵抗性は「ユキホマレ」と同じ強，わい化病抵抗性は同品種の弱に対しやや強である。茎疫病菌抵抗性および耐湿性はそれぞれ，「ユキホマレ」と同じ強および中である。裂莢の難易は「ユキホ

- マレ」と同じ難，最下着莢節位高は同品種と同じ中である。
- 外観上の品質は「ユキホマレ」と同等である。子実の粗蛋白含有率は「ユキホマレ」より高く，粗脂肪含有率は同品種並である。豆腐破断応力は「ユキホマレ」より高く，豆腐加工適性に優れる。煮豆，納豆および味噌の加工適性は，いずれも「ユキホマレ」と同等である。

#### 栽培適地と奨励態度

- 道央，上川，網走，十勝に適する。栽培上の注意は，
- 「ユキホマレ」に倒伏が発生する圃場では，栽植密度を同品種以下にすること，
  - ダイズシストセンチュウレース3抵抗性であるが，連作および短期輪作を避けるとともに，レース3抵抗性品種にシストが着生する圃場では作付を避けること，である。

試験地名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における		倒 伏 程 度	10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	豆腐破 断応力 (g/cm <sup>2</sup> )	試験年次
				主茎長 (cm)	莢 数 (莢)		子実重 (kg)	同左比 (%)				
十勝農試	とよみづき	7.17	9.22	69	69.9	微	364	105	38.6	2中	92	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.17	9.20	64	65.7	微	347	100	36.1	2下	73	
	トヨコマチ	7.17	9.26	72	65.8	少	378	109	38.7	3上	93	
北見農試	とよみづき	7.19	9.23	63	74.6	微	363	101	34.6	2中	81	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.19	9.23	59	73.3	微	360	100	35.2	2中	67	
	トヨコマチ	7.20	9.26	66	65.1	少	356	98	36.2	2中	86	
上川農試	とよみづき	7.11	9.15	81	77.6	多	369	97	34.6	2下	80	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.11	9.15	73	72.6	多	380	100	35.0	2中	62	
	トヨコマチ	7.11	9.20	79	73.1	甚	372	98	34.8	3中	75	
中央農試	とよみづき	7.13	9.18	56	64.2	微	324	98	37.6	2下	91	2009～ 2011
	ユキホマレ	7.13	9.17	55	62.9	少	329	100	35.6	2下	67	
	トヨコマチ	7.14	9.20	62	63.7	中	349	106	36.3	3上	84	

参照 1) 北海道農政部編，平成24年普及奨励ならびに指導参考事項，13-16 (2012)。

## 4. 小豆

- きたろまん（系統名 十育147号）2005年  
登録番号：（北海道）小豆北海道第23号  
（農水省）あずき農林16号  
（種苗法）第16296号

#### セールスポイント

開花着莢期の耐冷性に優れ落葉病，茎疫病菌レース1及び萎凋病に抵抗性を有するやや早生の普通小豆品種である。

**来歴** 本品種は，成熟期が早く，良質，多収，落葉病・茎疫病・萎凋病抵抗性品種の育成を目標に，1995年北海

道立十勝農業試験場において「十育137号」を母，「十育138号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。2000年より「十系782号」，2001年からは「十育147号」の系統名で各種試験を行い，2005年に優良品種となった。なお，本品種の系譜は次のとおりである。

#### 特性概要

- 主茎長は短の長で「きたのおとめ」より短く，主莢節数はやや少ない。分枝数は同等である。
- 小葉の形は「きたのおとめ」と同じ円葉である。
- 子実の形は円筒，大きさは中の大に属し，百粒重は